

令和8年度 大阪府立光陽支援学校 第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	川村 典子

開催日時	令和8年6月29日(月)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(副会長) 鎌倉 義雄(委員) 坪井 美保子(委員)
出席者(学校)	川村 典子(校長) 高野 和宏(事務長) 西山 三穂子(教頭) 曾川 康代(教頭) 竹内 成江(首席) 後藤 翔太(首席) 赤星 哲也(首席) 菊池 亮輔(首席/病弱部主事) 佐藤 薫(指導教諭) 秀衡 隼人(指導教諭) 網中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 佐々木 敦子(中学部主事) 上田 康司(高等部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記議題関係資料
備考	欠席者:川本 直也(委員)、永野 信男(委員)、内原 菜希(小学部主事)

議題等(次第順)
(1) 校長挨拶 (2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介 (3) 「学校運営協議会会長・副会長」の選出 (4) 「学校運営協議会実施要項」、「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認 (5) 本年度の予定 (6) 本年度「学校経営計画」について (7) 意見交換 (8) 教頭挨拶
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
(1) 校長挨拶 令和8年度がスタートし、あっという間の3か月。学校は問題なく順調に日々活動を行っています。今日現在までの学校行事としては運動会や中学部・高等部の宿泊学習が実施されました。また、6月からプール学習も始まり、ここまでは幸いにも天候に恵まれて入水の機会を確保できています。今後とも安全に気を付けて教育活動を進めて参ります。6月25・26日と東京で開かれました全国特別支援学校長会に参加して参りました。大阪での台風による豪雨被害について、TVのニュースではタイムラグがあり、リアルタイムで大阪の状況をキャッチすることが難しく、教頭からの連絡で把握するに至りました。即時性の高いNHK防災アプリ等を常用すべきだったと反省しております。本校においては校舎の老朽化で、雨漏りが発生している箇所があります。今後、工事等の対応を適切にすすめて参ります。 本日はお忙しい中、学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。様々な知見やご意見をいただきまして、今後の学校改善に向けていきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(2)「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介

(3)「学校運営協議会会長・副会長」の選出

会長に大阪大谷大学 小田様、副会長に大阪教育大学 平賀様を、全会一致で信任。

(4)「学校運営協議会実施要項」及び「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認

昨年度から変更なし。今年度もこれらに基づいて本会を運営していく。

(5)本年度「学校経営計画」について

①全体説明〈校長：川村 典子〉

個別の部門における詳細は、各担当教員から説明。(後述)

昨年度の学校評価から見る課題として、「人権」に関することについては高い評価を得ており、校長自身も本校の自慢として外部の来校者等にお話ししている。人権に関する取り組みを愚直に実施してきた成果であり、今後も継続して取り組んでいく。低下した評価として「防災」「教員の障がい理解」があげられる。ICTの活用、防災(災害時の医ケア)、小学部段階からの進路指導の仕組みづくりというものを、対話を通してすすめていきたいと考えている。その基盤となるのは学校教育目標であり、その中で先生方と一緒にビジョンを抱いて共有しながら実施していくことが大切。インクルーシブ社会の形成を本格的にすすめ貢献していきながら、ウェルビーイングという概念について共有して進めていく。

本校の目指す児童生徒像についての浸透、防災体制の強化と災害時対応力の向上については後述。

Ⅰ【基礎】安全で安心な校内体制の構築

分教室の災害時対応について本校と分教室では対応が異なることがある(警報が出ても病院内は影響がないため)。災害時対応を含めて、病弱部門の観点からも整理、病院との協議をすすめていく。

○防災体制の強化〈首席：赤星 哲也〉

本校ではこれまで生活指導部が防災・防犯訓練やBCPの作成管理等を実施してきた。今年度は、加えて防災PJがそれらを全校横断的に実施するとともに、外部から防災士を招き、その知見と助言を取り入れたものにアップデートしていく予定(施設見学や防災・防犯訓練・光陽GoGoフェスに来校してもらい指導や助言をいただく)。また、今年度は各学部の授業参観に合わせて、保護者参加型の「災害時における児童生徒の引継ぎ訓練」や災害時における医療的ケアの観点をもった研修等を実施予定。BCPの改定や、これらの実践データ、防災における専門家の知見等を併せて、新しい学校BCPをつくりあげていく。

○災害時対応力の向上〈指導養護教諭：澤 綾子〉

これまでの避難訓練等においては、毎年似たような内容・シナリオのものが多く、実際の傷病者発生やその対応というところまで深く想定出来ていなかった。今後は傷病者の対応も含め、より具体的に重点をおいて訓練を実施する予定。傷病者の把握・駆けつけ・物品の移動などについて動きを具体化するとともに、本部・保安班・救護班がそれぞれの役割を果たし、より強固に連携することで命を守る。それぞれの役割をより明確にした訓練実施を目指す。また、医療的ケア児の避難についてはこれまでと違い、手技の最中を想定したシナリオを設定する。いざという時に必要な初期対応をとることができるよう、マニュアルを作成するとともに、研修や訓練を通して実践的な備えを身につけていく。

2【実践】専門性の向上

学部によって保護者と話す内容が変わってくるため、進路指導主事中心に小学部から進路について対話ができれば整理している。後期の懇談において実施予定。

○自立活動の指導力〈指導教諭:秀衡 隼人〉

自立活動専任の先生が小学部・高等部、指導教諭1名が中学部を、自立活動を中心に巡回指導をおこなっている。それぞれの学部の自立活動においては、身体に関する内容が多く、グループや学年などの一定規模の集団単位で日々取り組んでいる。今年度、転任者や若い教員が増えた中で、肢体不自由教育や身体の自立活動についての専門性という点に課題があり、日々養い培っていかねばならない状況にある。

これまでの自立活動の取り組みを振り返ると、「どこに重点を置いているのか、何を根拠にどういった目的を設定しているのか」という点について、指標となる記録がなかったことが問題点だと認識している。今年度、まず中学部において生徒毎に自立活動の【内容票】を作成し、生徒個別の目標と保存した活動の動画等を照らし合わせながら実施していく。しっかりと情報を共有し、同じ目標や目的のもとに、共通の手技を確立することを目指す。

○本校の目指す児童生徒像・授業力の向上〈首席:後藤 翔太〉

・本校の目指す児童生徒像については、グランドデザインに掲げているように「光陽(こ・う・よ・う)」の頭文字をとった親しみやすいものとなっている。しかしながら現状と課題として、目指す児童生徒像や学校教育目標が十分に浸透しているとは言えないと感じている。今後、これらの具体的な推進について、児童生徒に対しては校長から全校集会等を通じて周知していき、教職員に対しては職員会議や研修等を使って確認の機会を設ける。校内外すべての人に対して、より親しんでもらえるよう今後もデザインしていく。

・昨年度の学校評価をもとに考えると、教育活動におけるICT機器の活用に関する診断項目について、肯定的評価の保護者回答と教職員回答において数値差が生じていること、また「教職員は子どもの障がいについて理解しているか」という診断項目において保護者の肯定的回答が前年度からやや低下していること、これらを問題視して今後取り組んでいく予定。また、昨年度校長が全教職員の授業見学を実施し、実際の授業の現状がどうなっているのかを把握したうえで今年度の方針を考えている。転任者が多い中で、自立活動の指導力を含めた専門性の向上・構築が今年度の課題だと捉えている。今年度は、新しい研究テーマの設定(生きる力を育む授業実践)・授業設計の基礎(インタラクショナルデザイン)について周知・教育目標が視認できる新たな指導略案の作成・様々な種別の教員同士の協働・教員が互いに授業や教材を見合う機会の設定という5つを計画している。

3【発信】インクルーシブ社会の実現への貢献

・交流及び共同学習として、清水小学校などの居住地校と連携して実施。基盤となるのが本校の出前授業であり、居住地校の生徒たちも、素直な反応や自分の考えを述べてくれる。こういったところから障がい理解が広がればと感じている。

4【組織】組織開発

昨今、新聞紙面やネット記事などでも「対話」というワードをよく目にする中で、顔を合わせて話すことの大切さが認識されていると感じる。また、教員との面談の中で、指導感の違いのすり合わせが難しいという声を耳にす

る。言いにくいこともちゃんと言える、そのうえで話をすり合わせていくこと。その文化を育てていきたい。

専門性の継承について校長会でも話題となったが、人手不足から難しさを感じている。肢体支援の経験のない人材が増えている中で、経験のある教員が指導助言しながらすすめているが、それらがキャパオーバーにつながったり、業務の圧迫につながったりすることで、間接的に時間外労働が増えてしまうという現状がある。また、講師の先生だけでなく、若い世代（大学生）について、これまでの常識が通用しない部分があり。当たり前が当たり前になってわかってもらえないと感じている。昨今の若者事情についてご教示をお願いしたい。

〈委員による回答〉

→大学生（若い世代）への指導については、ここ5年で大きく変わったと感じている。指導者側の当たり前、「これぐらいわかるよね」という感覚にズレが生じ、通用しなくなっている。例えば、学生が小学校のあとに支援学校に教育実習に行くときに事前指導をする中で、小学校での実習の経験を支援学校での実習に生かすという感覚が少なく、小学校と支援学校は別物だと捉えてしまう。このように物事の関連性や繋がりよりも「違い」を強く区別しようとする学生が多いと感じる。それはその他の場面でも見受けられ、決して悪いことばかりではないが、学びや経験が中々つながりにくいという課題となっているため、どのようにつなげていくか、共通点などについて丁寧に具体的に伝えていく必要性がある。

→叱られ慣れていないように感じる学生が多い。指摘や注意をされた時にショックを受けたり、教務課や事務方などの別の期間に相談に行くケースや保護者面談に至るケースもある。一方で、自分がやらない事にははっきりとやらないと言えたり、周りに合わせるのが難しかったりすること多い。指導者側も新たなかわり方を考え、柔軟に変化していかなければならないと感じる。

○防犯について〈教頭：西山 美穂子〉

今年度、2件の不審者侵入事案が発生している。幸いにも実被害はなかったが、この事案を受けて本校の防犯体制の見直しを進めているところである。「敷地内に不審者を立ち入らせない」という認識のもと、来校証や職員証の提示をすべての来校者に義務化し「確認なき解錠」は行わない。それらのインターホンでの確認基準をマニュアルとして整理するとともに、正門にも掲示している。また、不審車両への対応として、車内掲示ようの入校許可証を保護者や福祉タクシーに配布し、来校時の掲示を義務化した。今後もさらなる防犯体制の見直しを行っていく予定。

(6) 質疑・意見交換〈下欄に記載〉

(7) 取り組み報告（進捗）

・運動会の実施（病弱部門）

小中に分かれて、紅白の応援旗の作成。競技としては大玉転がしや玉入れ、ポッチャダンスなどを椅子に座って出来るように工夫して実施した。本校のマスコットキャラクターこうやんも駆けつけ、一緒に思い出をつくることができ、運動会后、中学部の生徒が作文で前向きな感想を伝えてくれた。

・ポッチャの取り組み（肢体不自由部門）

今年度は残念ながら全国ポッチャ甲子園の出場は叶わなかった。しかし、選手たちは自分たちの持てるす

べての力を発揮して頑張ってくれた。このような悔しい経験も、生徒たちの成長の糧になると信じている。沢山の応援、本当にありがとうございました。

・GoGo フェスティバルの実施

現在120名ほどの参加申し込みが届いている。今年のテーマは「わ!」チラシのイラストは病弱部の生徒が描いてくれた。またこれまでと比べても、今年はより多くの企業様のご協力をいただいております、防災関係やICT機器、支援機器等様々な発信・学びがあり、教職員にとっても有意義なものになる。学校HPから特設サイトをご覧ください。

(8) 今後の予定の確認

①第1回(6月29日)

- ・本年度「学校経営計画」について、本年度の取り組み報告

②第2回(候補日:11月30日(月)、12月3日(木)、12月9日(水))

- ・「学校経営計画」進捗状況
- ・「授業アンケート」(1学期・2学期)結果について
- ・「教科用図書選定」について

③第3回(候補日:2月5日(金)、2月9日(火)、2月12日(金)、2月17日(水))

- ・「学校経営計画及び学校評価」達成状況
- ・次年度「学校経営計画」について
- ・「学校教育自己診断」分析について

(9) 教頭挨拶

本日はお忙しい中お越しいただきましてありがとうございました。本協議会において頂戴しました多角的、建設的なご意見を今後のより良い学校運営に反映して参ります。ありがとうございました。

委員からの意見の概要

・PTAとして今後の学校運営に期待しています。新しく転任された先生、若手の先生とともにより良い学校になってほしい

・切れ目のない支援を実施するうえで、児童生徒それぞれの教育目標を共有することが大事だと思います。学校、福祉、家庭が相互に共通認識をもつとともに、目指すべき姿についてそれぞれの思いを共有できる面談のような場があればいい。可能であれば授業見学を事業者にも公開し、少しでも共有できれば事業者を交えた切れ目のない教育が実現できる。

→昨今、複数の事業所を利用する児童生徒が増えており、事業所毎に活動内容や支援方法等がバラバラになりがち。ケース会議を年1~2回開いて共有することが多くなっており、事業所の学校見学も含めて出口の取り組みはある。

・今後の学校運営、その重点課題等について、もっと肢体部門と病弱部門をまたいだ観点でもって提示していただきたい。肢病それぞれに生かせることがきっとあるはずであり、肢病を交えた議論を展開することで、学校を発展させることができると考える。

→病弱部において育てたい力についてはグランドデザインにも入っている。また、職員会議等を通じてそれぞれ

れの実践報告を行い、肢体病弱がお互いを知るきっかけをつくっていきたい。

・自立活動について、自立活動専任や指導教諭の巡回指導は大事な取り組みだと感じた。専門性の継承、身体に対するアプローチの基本はコミュニケーションであるということが分かっているかどうか。やり取りの大切さ。そのことを継承していくことが大切。

・授業力の向上については、支援学校ならではの個別性とは別に、集団性という観点も大切にしていきたい。生徒同士が活動中に待つではなく見守る、応援するなど。その観点が重要視されればより良いものとなる。自立活動における専門性の向上と同じくコミュニケーションが大切。

次回の会議日程

日時	令和8年11月30日(月) 予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室